



菅波 茂

「AMDAおふくろ」がアジアやアフリカの子供たちの人气的になっていく。布切れを利用した30センチ幅の小物入れで、何でも入れられる。人気の秘密は布の色彩と柄にある。世界にはそれぞれの地域に文化があり、色とデザインに特徴がある。みなさんの家庭の残り布が日本の文化を発信しているわけである。

布の提供と制作には岡山市一宮地区のボランティアをはじめ各種グループの方々が協力してくださっている。私が経営する老人保健施設「すこやか苑」でも作業療法

を兼ねて実施している。体の不自由な人が主役である。

## AMDAおふくろ

「だれでも他人の役に立ちたい気持ちがある」。これはAMDA人道援助の三大原則の一つ。高齢者の方にAMDAが活動している国の状況を写真で見せし、子供たちがいかに「AMDAおふくろ」を楽しむに待っているかを説明すると、喜んで製作に参加される。

子供たちがそれを受け取って喜んでいる写真、自分たちの宝物をしまっている写真を報告することも大切である。世界の子供たちとカラフルな夢を共有するのが「AMDAおふくろ」の目的である。

昨年12月にアフリカのルワンダに行ってきた。1994年に3カ月間に約100万人が虐殺され、数百万人が難民になった国。今でも国の25%の地域で戦闘が続く。どこに行っても子供たちの大群がいる。孤児も多い。現在の日本では信じられない光景である。内戦中の国づくりの途中でもあり、ないないづくしである。「AMDAおふくろ」を持った子供たちの輝きを想像してほしい。

「AMDAおふくろ」はリサイクル運動だけでなく草の根国際貢献のシンボルでもある。「岡山から世界へ」の合言葉のもとに多くの人たちに参加して頂けることが夢である。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)